最後に

認定こども園に課せられた社会的責任は、非常に重い。しかし、裏を返せば、私たちは、子どもたちや保護者とともに、誰もが幸せに暮らせる社会作りを進める上で中心的な役割を果たすことができるのである。子ども・子育て支援新制度の意義を再認識し、これからも前向きにこの制度を利用できるよう、十分に議論を重ねながら、子どもたちや保護者に必要とされるこども園運営をしていきたい。

4 認定こども園こどもむら

学校法人柿沼学園　認定こども園こどもむら
理事長・学園長　柿沼平太郎

（1）テーマ

子ども・子育て中心の街づくりを目指して

（2）組織体制

運営主体：学校法人柿沼学園

スタッフの内訳：学園長・副園長・主幹教諭・保育教諭・看護師・管理栄養士・調理師・事務職員等
合計64名

（3）地域環境・地域問題

本園の所在する埼玉県久喜市は、平成22年3月に1市3町の合併により誕生した、埼玉県北東部に所在する人口約154,000人（H27）の街である。都心部へはJR、東武線を利用して約1時間程度と利便性は高く、東京のベッドタウンとして開発されてきたが、近年は人口減少や少子高齢化といった問題に直面している状況となっている。特に少子化問題は深刻で、出生率も1.09人（H24）と全国平均1.41人（H24）を大きく下回り、市の事業計画では、平成27年より31年の5年間で0～5歳児人口が10%以上減少することになっている。

本園の所在する栗橋地区においてこの問題は更に深刻で、約20年前から区画整理事業が行われたもののバブル崩壊後というタイミングであったこと等が要因となり、人口の流入も計画通りには進まず、駅前でさえ空地が目立ち、その後5校あった小学校が3校に統合され、商業施設も撤退する等、街の機能や子どもを育てる環境が低下している状態となっている。

（4）活動理念・目的

本園の活動理念は「子ども・子育て中心の街づくり」となっている。人口減少・少子化社会を迎えた地域において「この街で子どもを育てたい」と思ってもらえるように、街の子育て機能を本園が中心となって再構築し、子どもが集団として育ちあえる環境を提供すると共に、地域の子ども・子育てにおける様々な機関や産業等と協働していける地域ネットワークづくりを目指している。

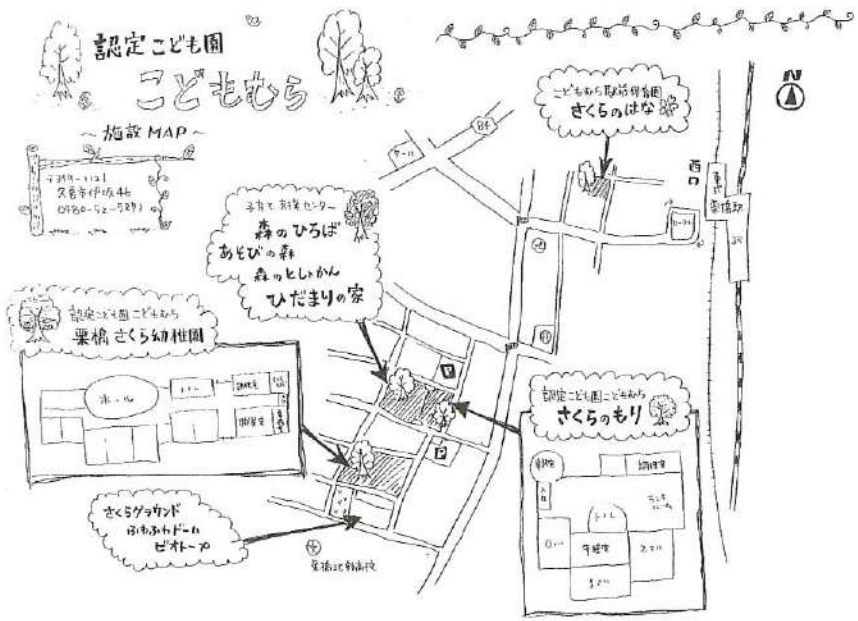
「ここにいるっていいね、いっしょにいるっていいよね」という理念の下、園児や保護者、保育者だけでなく、園を取り巻く地域や関係の方々等、みんなが居心地よく、安心して生活できる場になることを目的としている。

（5）事業の経緯・背景

昭和50年に第二次ベビーブームの際に増加する子ども達に幼児教育の場を提供したいとの思いから、「栗橋さくら幼稚園」を開設した。幼稚園を運営しながら、就園前の0～2歳児の在宅子育て支援の重要性に気づき、地域の子育て支援の充実を図る方向性を打ち出した。その後、地域から1、2歳児の保育を望む声があがったことから、園内に認可外保育施設「チャイルドハウス」を併設し、徐々に一時預かり事業や地域子育て支援を充実させながら10年間運営した。

そして、平成24年に認可保育所さくらのもり保育園を開設と共に認定こども園こどもむらとして事業を開始しました。平成27年度“子ども・子育て支援新制度”の施行により、栗橋駅前に小規模保育施設「こどもむら駅前保育園　さくらのはな」を開設した。

平成28年度より、アウトリーチ型子育て支援の柱として「ホームスタートこどもむら」がスタートした。認定こども園での教育・保育の提供を中心に、子育て支援センター、一時預かり、ホームスタートといった機能により、地域における子育てのワンストップサービスを目指している。



（6）活動内容（開催日を含む）

☆在園児の子育て支援（こどもむら保護者会）

☆子育て支援センター　森のひろば：毎週月曜～金曜日（9時30分～14時30分）

【登録者380組（平成27年度）】

利用者数：11,344人（平成27年度）

・森の誕生日会：毎月1回〈大きなケーキを囲みお誕生会を行う〉

・森のやおやさん：毎日〈地域の方が生産した農作物を安価で販売している〉

・森のパン屋さん：不定期（毎月4～5日程度）〈ランチタイムに調理パンの販売をしている〉

・森のお米屋さん：毎月１回〈地元のお米を農作物と一緒に安価で販売している〉
・森のお菓子屋さん：毎月１回〈地元の洋菓子店のクッキー等を販売している〉
・ランチサービス：毎週金曜日（予約制）
・食育講座（不定期）
〈園の管理栄養士により、離乳食、アレルギー食、行事食等の講座を行っている〉

・子育て相談（健康相談、栄養相談、発達相談等）：毎週１回
〈園の看護師・管理栄養士等による相談事業〉
・森の講習会：不定期
〈臨床心理士、助産師、シェフ等、多様な講師をお招きして講演会、座談会を開催している〉
・こどもむら農園〈お庭をもっていない家庭に畑を貸して農作業を楽しむ場を提供している〉
☆森の図書館〈絵本はもちろん、女性誌やファッション誌、マタニティーコーナー等も充実させた子どもとお母さんの為の図書館〉
☆一時預かり保育事業　さくらんぼ：毎週月曜～金曜日（8時30分～16時30分）
〈毎日10名程度のお子さんをお預かりしている。職員体制：5名〉
☆あそびっこくらぶ：毎週火曜～木曜日〈就園前のお子さんが通うクラス〉
☆子育てひろば事業：不定期
〈音楽会、移動動物園、ミニ運動会等、地域の子ども達に季節の行事を中心に提供している〉

☆ひだまりふれあい子育てまつり：年１回
☆保育環境ボランディア　プラチナ：不定期
★ホームスタートこどもむら
★学童保育（平成29年度開始予定）※認可外保育も併設
★その他、平成29年度には、子育てカフェ、駄菓子屋さん、出張図書館等を計画しており、子ども・子育て中心の街づくりを目指していく。

（7）利用者の声

運営をはじめてから２年が経ったが、地域における0～2歳児の在宅子育て家庭の居場所として機能しはじめている感じがしており、利用者も近所だけでなく、遠方から遊びに来てくれることもある。

講習会後のアンケートでは「参加してよかった」「心が少し楽になった気がする」などと子育ての悩みが少しだけでも解消したことや余裕が出たとの声もいただいている。

（8）活動の特徴

地域子育て支援「森のひろば」の特徴としては、誰でも、いつでも来れるという子育て中の家族の地域の居場所となっている。イベント事や行事等を多くして参加者を集めるのではなく、家に帰るような暖かく、ゆったりとした、ほっと出来る場所になるように努力している。子どもの居場所というよりも子育て中の保護者目線に立った施設運営を心がけている。

また、在園児の子育て支援に関しては、働いている、いないに関わらず多様な家庭環境にも対応できるような保護者会組織に再構築し、土曜日、日曜日といったお休みの日にお父さんでも活動しやすい環境を作った。そして、保育者と共に子どもの生活や園環境に出来るだけ触れることや、お便りやブログ、掲示等により保育の可視化をすることで子ども達の発達理解や園の保育への理解が進むようにしている。

（9）今後の課題

現在抱えている課題としては、大きく５点ある。

①行政、学校、関係機関等とのネットワークシステムの構築や連携、協働。②産前産後からの子育て支援③アウトリーチを必要とする家庭への対応。④児童期の放課後や家庭生活。⑤街づくりへの参画。

特に早急な対応が必要と考えているのは、産後鬱等の理由から社会から孤立してしまう家庭へどのように支援を届けていくかという点だと考えている。子育ての孤立から虐待やネグレクトにつながる可能性も存在し、支援が届かなかったことで親子共々その後の生活に大きな影響を与えてしまうことも考えられる。そこで、本園ではアウトリーチの必要な家庭への支援の第一歩としてホームスタートを平成28年度から開始した。また、産前産後からの子育て支援として助産師さんをお招きし、産婦人科のある病院にご協力いただき参加者を募り座談会を開催した。これから子どもを産む妊婦さん達が支援センターの存在を知り、お友だちが出来、子どもを産んだ後に社会とつながる場所があると思える機会になったことは大きな成果と考えている。ただし、助産師さんや保健師さん、その他関係機関と連携しながら継続していくことに多くの課題を抱えていることも事実だ。

その他多くの課題が存在しているが、こどもむらの子育て支援は地域全体が元気になる為の事業と位置付けている。地域全体が子どもを授かったことを喜び、子どもが育つことを楽しみ、「ここにいるっていいね、いっしょにいるっていいよね」と少しでもみんなが思える地域づくりが目標となっている。

5 幼保連携型認定こども園こどものもり

若盛正城

（1）テーマ

一人一人を大切にした誕生祝いの会

『「あかちゃん誕生おめでとう、おかあさん誕生おめでとう」（倉橋惣三著「育ての心」母の誕生・母の成長より）』一年に一度必ずやってくる誕生日は子どもにとっては待ちに待った嬉しい日である。また親にとっては「我が子の成長を実感する日」として参加していただき、「その子の生まれた日（原則）」に実施している。